

# 高等学校における体育理論授業の実態に関する調査報告： 女子体育大生と一般女子大生との比較

中村 平

笹生 心太

NAKAMURA Taira

SASAO Shinta

## はじめに

東京女子体育大学女子体育研究所では、平成27年度に共同研究として「高校時代の保健体育授業や課外活動等の実態調査」<sup>2)</sup>を実施し、その一部内容とされていた体育理論授業については、「高等学校における体育理論授業の実態に関する研究」<sup>1)</sup>として報告された。その際に対象とされたのは女子体育大学の新生であったことから、今年度は昨年と同様の調査票を用いて一般大学の女子学生を対象に調査が実施された。

本報告は昨年度の結果と今年度の結果を比較することにより、女子体育大生と一般女子大生とで、高等学校時代に受けた「体育理論」の授業にどのような違いがあるかについて明らかにしようとしたものである。比較の視点は「実施状況」、「実施内容」及び「実施方法」の3点であった。

## 1. 体育理論の実施状況

「体育理論」の授業の実施状況は表1の通りである。「実施されていた」と回答した学生は女子体育大生が33.6%、一般女子大生が33.4%となっており、ど

表1 体育理論の実施状況

	女子体育大生		一般女子大生	
	f	%	f	%
実施されていた	123	33.6	138	33.4
一度も実施されなかった	163	44.5	120	29.1
覚えていない	80	21.9	155	37.5
合計	366	100.0	413	100.0

ちも高校時代における体育理論授業の実施率はおおよそ3分の1であった。

## 2. 個別内容の実施状況

体育理論の授業が高校時代に実施されていたと回答した学生<sup>注1)</sup>に対して、その具体的内容を聞いた結果が表2から表8である。

体育理論の学習内容としては以下の7項目について調査した。

- A. スポーツの歴史や文化的特性
- B. 運動やスポーツの効果的な学習の仕方
- C. 豊かなスポーツライフの設計の仕方
- D. 体ほぐしの意義と体力の高め方
- E. 体力トレーニングの内容と行い方
- F. スポーツの指導法と安全
- G. スポーツの運営及び管理

これらのうち、A、B、Cは現行の学習指導要領において普通科の学習内容として明記されているものであり、それに加えて体育・スポーツ科ではF、Gを学習することになっている。また、DとEは、以前の学習指導要領において位置づけられていたことから、今回の調査項目に加えることにした。

「A. スポーツの歴史や文化的特性」については、女子体育大生は67.7%、一般女子大生は78.3%が実施されたと回答しており、一般女子大生の方が約10%多いことがわかった(表2)。

表2 A スポーツの歴史や文化的特性

	女子体育大生		一般女子大生	
	f	%	f	%
実施された	88	67.7	108	78.3
実施されていない	25	19.2	9	6.5
覚えていない	17	13.1	21	15.2
合計	130	100.0	138	100.0

「B. 運動やスポーツの効果的な学習の仕方」については、女子体育大生は84.5%、一般女子大生は74.6%が実施されたと回答しており、A. とは逆に、女子体育大生の方が約10%多いという結果であった(表3)。

また、この内容は7項目の中では女子体育大生で最も多く、一般女子大生で2番目に多く学習された内容であることがわかった。

表3 B 運動やスポーツの効果的な学習の仕方

	女子体育大生		一般女子大生	
	f	%	f	%
実施された	109	84.5	103	74.6
実施されていない	7	5.4	9	6.5
覚えていない	13	10.1	26	18.8
合計	129	100.0	138	100.0

表4は「C. 豊かなスポーツライフの設計の仕方」について調べた結果である。実施されたと回答した学生は両大生とも70%以上であり、7項目の中では女子体育大生では2番目に多く、一般女子大生では3番目に多くが学習した内容であった。

表4 C 豊かなスポーツライフの設計の仕方

	女子体育大生		一般女子大生	
	f	%	f	%
実施された	102	79.1	102	73.9
実施されていない	14	10.9	13	9.4
覚えていない	13	10.1	23	16.7
合計	129	100.0	138	100.0

表5の「D. 体ほぐしの意義と体力の高め方」及び表6の「E. 体カトレーニングの内容と行い方」は、以前の学習指導要領に位置づけられていた内容であることも影響してか、半数強の学生が「実施された」と回答しており、前3項目(A・B・C)よりも相当低い実施率であった。中でも一般女子大生で「体ほぐし

の意義と体力の高め方」が実施されたと回答した学生は半数以下であることが注目された。

表5 D 体ほぐしの意義と体力の高め方

	女子体育大生		一般女子大生	
	f	%	f	%
実施された	75	54.3	66	47.8
実施されていない	36	26.1	22	15.9
覚えていない	27	19.6	50	36.2
合計	138	100.0	138	100.0

表6 E 体カトレーニングの内容と行い方

	女子体育大生		一般女子大生	
	f	%	f	%
実施された	74	54.0	71	51.4
実施されていない	32	23.4	27	19.6
覚えていない	31	22.6	40	29.0
合計	137	100.0	138	100.0

表7の「F. スポーツの指導法と安全」及び「G. スポーツの運営及び管理」は、体育・スポーツ学科で学習する内容として示されている項目についての比較である。

表7では女子体育大生で半数以上の学生が実施されたと回答しており、一般女子大生でも実施されたと回答した学生が選択肢の中では最も多いが、その比率は38%であり、女子体育大生の53%とはかなりの差が見られた。

表7 F スポーツの指導法と安全

	女子体育大生		一般女子大生	
	f	%	f	%
実施された	73	53.3	52	38.0
実施されていない	35	25.5	36	26.3
覚えていない	29	21.2	49	35.8
合計	137	100.0	137	100.0

また表8では、実施されていないと回答した学生が最も多く、実施されたと回答した学生は女子体育大生が33%、一般女子大生が20%であった。女子体育大生の中には、一般女子大生よりも体育・スポーツ学科からの進学者が多いとの推測が成り立つことから、両項目の実施が女子体育大生で高いことは当然ともいえよう。

一方、一般女子大生の高校時代の学科は388

名(93%)が普通科であり、体育・スポーツ学科からの進学者がわずかに1名であることを考慮するなら、「F. スポーツの指導法と安全」が38%の実施率、「G. スポーツの運営管理」が20%の実施率は高いと見ることもできよう。

表8 G スポーツの運営及び管理

	女子体育大生		一般女子大生	
	f	%	f	%
実施された	45	33.3	28	20.3
実施されていない	51	37.8	56	40.6
覚えていない	39	28.9	54	39.1
合計	135	100.0	138	100.0

### 3. 体育理論の実施方法

表9は体育理論の授業がどのように実施されていたかを見たものである。

両大学の学生とも「荒天時のみ実施」は比較的に少なく、晴天時であっても体育理論の授業が実施されていることがわかった。但し、女子体育大生の中には体育理論の授業が「独立して時間割に組み込まれていた」と回答した者が半数であるのに対し、一般女子大生では約4人に1人の回答であり、一般女子大生では「保健体育の授業内にあり、晴天時にも実施」と回答した者が最も多く見られた。

表9 体育理論の実施方法

	女子体育大生		一般女子大生	
	f	%	f	%
独立して時間割に組み込まれていた	63	50.0	36	26.7
保健体育の授業内にあり、晴天時にも実施	27	21.4	49	36.3
保健体育の授業内にあり、荒天時のみ実施	22	17.0	22	16.3
覚えていない	14	11.1	28	20.7
合計	126	100.0	135	100.0

### 4. まとめ

以上についてまとめると、体育理論の授業の実施率は両大学の学生ともおおよそ1/3であり、個別内容としては、現行の学習指導要領で普通科の学習内

容として示されている「スポーツの歴史や文化的特性」、「運動やスポーツの効果的な学習の仕方」、「豊かなスポーツライフの設計の仕方」の実施率が高く、中でも女子体育大生では「運動やスポーツの効果的な学習の仕方」と「豊かなスポーツライフの設計の仕方」の実施率が、一般女子大生では「スポーツの歴史や文化的特性」と「運動やスポーツの効果的な学習の仕方」の実施率が高いことがわかった。

また、「体ほぐし」や「体力トレーニング」に関する内容の実施は、両大学の学生ともに半数程度の回答であった。

さらに、体育・スポーツ学科等で示されている内容については、回答率は低いながらも女子体育大生の方が高いこと、一方、体育・スポーツ学科等の卒業生が少ない割には一般女子大生においても、かなりの学生が学習してきたことがわかった。

体育理論の実施方法については、女子体育大生に「独立して時間割に組み込まれていた」が最も多く、一般女子大生では「保健体育の授業内にあり、晴天時にも実施」が最も多い回答であることもわかった。

注1) Q12において体育理論が実施されたと回答した者は、女子体育大生が123名、一般女子大生が138名であったが、そのサブクエスションである個別内容の実施状況においては、女子体育大生では126名から138名が、一般女子大生では135名と137名が回答している。本稿では、この点の統計的クリーニングは行わなかった。

注2) 表1から表9の各表のうち、女子体育大生欄の度数及び%は昨年度の研究(下記文献)からの引用である。

#### 参考及び引用文献

- 1) 笹生・中村「高等学校における体育理論授業の実態に関する研究」東京女子体育大学女子体育研究所報 第10号 pp. 31-35
- 2) 東京女子体育大学女子体育研究所報 第10号 pp. 8-12